

扶桑拾葉集
卷六







扶桑拾葉集卷第十七

目錄

相國寺塔供養記

小山所奉記



藤原經嗣

同

後法に縁こしめふしなる花のさかすか
多し今やこしめふしなる花のさかすか
也ささしめふしなる花のさかすか
わささしめふしなる花のさかすか
ささしめふしなる花のさかすか
ささしめふしなる花のさかすか
つる東の口足の門志のふし南
うささしめふしなる花のさかすか
寂僧集舎のあし金とや門の内
まて七重のやさささささささ
さの彩色板目ささささささ

何々やあかのみん舞臺うし
よささしめふしなる花のさかすか
ささしめふしなる花のさかすか
よささしめふしなる花のさかすか
門女如洗のしん物のさささ
たは花と先陣ささささ
舞師のささささささ
舞師の帷やささささ
ささささささささ
ささささささささ
ささささささささ
ささささささささ

その年のしほのふりてり家名と書く所を
ふさのくみまもせとよ給ふてふのしほの
おとのおのちうとてかきとてかきとてかき
まうとてかきと申ゆれとてかきとてかき
塔の元史のちうとてかきとてかきとてかき
のちうとてかきとてかきとてかきとてかき
わうとてかきとてかきとてかきとてかき
親音右士の比現とてかきとてかきとてかき
うのちうとてかきとてかきとてかきとてかき
只人のちうとてかきとてかきとてかきとてかき
と根えとてかきとてかきとてかきとてかき

ふとてかきとてかきとてかきとてかき
まうとてかきとてかきとてかきとてかき
ふとてかきとてかきとてかきとてかき
佛菩薩と供養供養とてかきとてかき
ふとてかきとてかきとてかきとてかき
てふのちうとてかきとてかきとてかき
まうとてかきとてかきとてかきとてかき
ふとてかきとてかきとてかきとてかき
右事とてかきとてかきとてかきとてかき
とてかきとてかきとてかきとてかき
ふとてかきとてかきとてかきとてかき
ふとてかきとてかきとてかきとてかき

上修りて交ハ欽明天皇の御宇ありて
其ノ時ニモ核縁いゆニ契と云ふ故と云て
之ノ時ノ名と云ハシキニ後推古天皇
女帝ニ至リテ其ノ時ニモ聖徳太子の御
時ニありテ其ノ時ニモ正法と云ふ所ニ
在リテ其ノ時ニモ法眼と云ハシキ
多ク其ノ時ニモ法眼と云ハシキ
現ニ四十余ノ本ノ伽藍と云ハシキ
救世の誓願也云々云々 魔王としカ
と云ハシキ 運信と云ハシキ 和光密
跡の跡也云々 如來菩薩の本地云々云々

ハシキニ其ノ時ニモ八幡大菩薩ハ八正
成道の理と云ハシキ 天皇日大明神ハ慈悲萬
行の名云々云々 其ノ時ニモ其ノ時ニモ
其ノ時ニモ其ノ時ニモ其ノ時ニモ其ノ時ニモ
代々の御門佛法と云ハシキ 中ニモ聖武
天皇ハ東大寺大佛と云ハシキ 其ノ時ニモ
其ノ時ニモ其ノ時ニモ其ノ時ニモ其ノ時ニモ
代殊更傳教弘法の作人云々 天台真言
五宗也云々 其ノ時ニモ其ノ時ニモ其ノ時ニモ
其ノ時ニモ其ノ時ニモ其ノ時ニモ其ノ時ニモ
天皇又慈覺大師ノ御受戒あり云々云々

一者如く帝位ありし法号をさへんは義なり
ゆゑに多しなり事なりは異國ありし
随場帝とてや智光大師とておぼしめ
とつとれぬはひしるものなり是れ
りや寛平法皇の御年平徳り
以位とてせりしは出家なり登位信正と
御師とてせりしは灌頂とて名ありぬ
そはらふ天台持念信正とて少灌頂あり
又廻心戒とて名ありしは戒壇の上
雲を念光とて名ありしは真言の
道とて名ありしは寛空信正法皇の

水牙子とて寛朝とて名ありしは廣
澤乃とて名ありしは仁和寺の御室徳
信の御孫とて諸家の総務とて名ありし
孫とて名ありしは徳とて名ありしは
白とて名ありしは廿七とて名ありしは
師とて名ありしは寛朝信正とて名ありし
智行とて名ありしは廣澤の信流と
て名ありしは灌頂とて名ありしは山
あとの山とて名ありしは又水尾の
孫とて名ありしは寛朝とて名ありし
みとて名ありしは信正とて名ありしは徳

の寄りきりの中いりや道徳の奇蹟上人二傳
の正傳と清涼寺より一はまのりしを此の
時たう中白河院しと佛の功徳
はひくことをもつたの後に沙出家の法
勝寺にうりやうあまの御新寺にこれ
封戸に園をともつたをこれしを
とらしてあつたつと行なりしを三寶の眞
體よりうりやうの御人
まうと天下とたつた運し久しと
鳥羽崇徳三代の正傳しとみ
多かりしとこれしと高野の御

力しと宣法のしとやん大法の
教を禁断しとあつた中も大方は代
より此の勅教の書もをえつた
うりやうの教のしとこれしと
の後に白河院と佛の功徳のしと
寺の公願のしと佛の功徳のしと
ありしと外南都小顔のしと受戒のしと諸社のしと
幸もをりしとこれしと三十余
のしとこれしと御信のしと今
と勅教のしとこれしと奉
しとこれしと

後ハ海... 法橋院... 浄念剛院... 傳法灌頂... 小野廣... 寛平...

少シク律戒... 御長母... 十善乃戒... 萬葉の實... 佛地... 佛地... 法念剛院... 三重塔... 待賢...

る〜〜〜
た大臣（後）〜
後香園院開白仰嗣公 二条の新園〜
延職寺願大臣（後） 兼皇太子内侍方（右） 中
并御豊洲長又曰位史皇孫大外記
頼重ゆ〜
兼皇太子内侍方（右） 中
並御豊洲長又曰位史皇孫大外記
頼重ゆ〜
兼皇太子内侍方（右） 中
並御豊洲長又曰位史皇孫大外記
頼重ゆ〜

成恩寺開白殿應永六四十九遷任詔
開白殿書明

お賀と〜〜
從の上御殿上の御點〜
中納言（右） 中将
〜〜〜
解由少納言（仲光） 入道親子〜
〜南の所〜
開白殿上〜

く如くはしるるに、
御殿上人は、
中門の廊下のり、
下堂上堂下
のたまひのあはれ、
一きん見所を、
なう廊あき、
頭弁の中、
下

後より二おの時、
清氣をぬ、
左の甲、
出師を侍、
仁座、
と申

御出の御家より御よりさうりさうりく扈從の公に殿
上りの御絶りて候へりまの御先登
持二人中童子云人次殿上者顯源御侍宣長
伊後範方長遠朝臣勅解由御官 文章博士右朝臣宣俊朝臣中子左中将
次房官六人鉞多織物の御
次有職七人次御車櫛柳御車副六人次上童
七人次法後侍七人法師次扈從僧總三人
櫛柳二三人若車副二人上童一人法侍
三條大納言兼左回宰相雜文侍二後
府の御出の御家より御よりさうりさうりく扈從の公に殿

中儀十人次前後坊下十二人方藏二人次
力者十二人次御車細代廂 軍副六人次上童八人御後
侍七人次扈從僧總一人道長曼珠院僧正
御房毘崎僧正御房いつ連も長物見の
小八葉く車副二人上童一人つ侍し
り夕也く於上童もの装束を全欄唐
柄り物いしく具ひくよ衣とおりしる也立
たりちきく先陣のより御出の御家より御よりさうりさうりく扈從の公に殿
みまりしる也守後りしる也人のりさうりさうりく
りしる也御出の御家より御よりさうりさうりく扈從の公に殿
つ寝殿の南面の簾中より御出の御家より御よりさうりさうりく扈從の公に殿

御願文とくわく馬かきく下とわ御のまとい
高き南階とくわくあまきと苗道のさなりか
とくわく海くそ豊くし長く階乃月と出御あは
開白殿とくわくあく由簾とくわくをう歩給志
くわくをわくくわくきくせわくくわくくわく
とわくさせ給くくわく御之上臺慶御
殿昇言とまひせくわく願辨是と取次
開白殿はまわ前給とくわくせ給くわくせ給くわく
くわくすき海殿とくわく中くの廊の南の地書と下
ま中くの外の列くわくくわくくわくくわく西と上くわく
小面く位大臣くわく御をいふ給くわく出給くわく

所より左衛門督童光御斗もれは是いふくわくは車
乃後よ借りくわく給くわくくわくくわく法親王傍儀
遊くわくくわく乃方よ南向くわくくわくくわく後南庭と
庭とせわくくわくくわく中くと歩かせのくわく経路を
とくわくやくわくのちくわく此ら親と開白と初
めくわくくわく地とくわくくわくくわく列の中と
くわくせわくくわくくわくくわく沙般はくわくくわく
くわくもい出まのくわくくわく言察くわく及くわくね
陵との装ゆくわくくわく御くわくくわくくわく給令
との包きくわくくわくの童去人同た巻の舞の中とく
二人の青海波くわくくわく拍鉦の装束くわくくわく

隆光

持光

永藤

清長

有光

資高

豐光

知高

定頭

重房

經豐朝臣

青杉葉下襷火長二人看侍出只入隨身二人

如本雜色二人舍人二人童一人

青杉葉下重火長二人看督長四人通身二人

隨身二人如本一人

如本二人

如本二人

如本二人舍人二人雜色六人

飼副一人當色如本四人同童二人

黃紅葉下重文紅紫麴麩麩表襷
并侍一人當色如本四人同童二人

兼俊朝臣

長方朝臣

資家朝臣

資忠王

俊泰朝臣

教真朝臣

滿親朝臣

源宣朝臣

如本物二人同童二人

如本二人同童二人舍人二人雜色四人

如本二人舍人二人童二人雜色四人

飼副一人當色二人如本童二人

如本二人舍人一人雜色童二人
雜色一人二童當色
紅紫紫

如本二人隨身舍人童二人雜色

如本當色四人同童二人舍人二人雜色

如本當色西房當色
同童三人二重當色並枝之身也本一人
居約人如本中厩舍人一人かじり
副舍人二人麴麩表襷
枝如本當色定
麴麩表襷

次公卿之侍下騎馬下物之侍也

通守朝臣

隨身如本馬副舍人雜色

中尾宰相中將

明憲

良顯

鈍色衣云文織色指貫指と半靴舎人二人力者四人中童子二人深装束大童子二人格知二人由云一人平装
鈍色云文織色指貫指と半靴腰子志と付舎人二人力者四人中童子二人深装束大童子二人格知二人由云一人平装

次房官前殿の事は二行下福と云はれり

良槐

舎人二人一人水干一人水干扇紅糸と大童子一人如木力者平装と持中間六人

祐清

行憲

鈍色云文織色指貫指と半靴舎人二人一人水干中童子一人水干指貫の糸と大童子一人如木力者四人平装中間六人

兼暹

行憲

鈍色織物指貫指と半靴舎人二人一人水干童子一人水干扇大童子一人如木力者四人一人水干中間六人
鈍色織物指貫指と半靴舎人二人一人水干童子一人水干扇大童子一人如木力者四人一人水干中間六人

光有

兼純

元豪

室徒

経範

宗秀法橋

慶傳法橋

任澄法橋

泰長法橋

泰然法橋

泰村法橋

次御力者廿人

鈍色織物指貫指と半靴舎人二人一人水干童子一人水干扇大童子一人如木力者四人一人水干中間六人
穀の鈍色云文織色指貫指と半靴舎人二人一人水干童子一人水干扇大童子一人如木力者四人一人水干中間六人
鈍色織物指貫指と半靴舎人二人一人水干童子一人水干扇大童子一人如木力者四人一人水干中間六人
鈍色織物指貫指と半靴舎人二人一人水干童子一人水干扇大童子一人如木力者四人一人水干中間六人

鈍色指貫指と半靴舎人一人水干童子一人水干扇大童子一人如木力者四人一人水干中間六人

帯銀子と菊水と
滋養の尻貫元文鶴丸とゆふ

童二人水干並下濃の
當色雅色二人格 合人一人 並
袴付花布物あり

金襴文布物少く雖相替大畧同篇之間不能注之

仙壽丸

尊珠丸

春賀丸

次御後侍一人
裝束坊官二日童二人 一人袴衣
一人並
細副二人即ホ四人中者三人大童子一人

大覺寺宮

有威前並六人以下同上
沖車細代底下巻

上童四人

常如意丸

此衣束僮僕已下同上

八百壽丸

千玉丸

幸玉丸

聖護尻僧正御房

僮僕多サ雖有之大畧同上

上童五人

愛君丸

聖如意丸

藤菊丸

春態

聖若

浄土寺僧正御房

上童四人

和賀丸

梅園

金駒

幸里

一宗院僧正御房

沖車細代庇杜丹の女

上童四人

大紫院僧正御房

沖車半菰油の文牡丹

上童四人

佳賀丸 阿賀壽丸 尊王 孫克

三寶院僧正御房 御車長物見桐文

上童四人

次 圓白殿

先前駈坐持四人 次居飼四人如本

御厩舎人四人如本 次前駈立位四人

次上臈隨身四人

厨生二人 束帯番長二人 宿深袴丸限のませき子前
と付右すりや 紅巻と付各移馬より定て御車の
前より

次番頭八人 衣とさき

御車

横柳車副六人 如本 御牛飼如本 一人 草
袴一人

下臈隨身五人

後練貫袴
一人 主系

權御隨身二人

行列の御車人この行列大概うぬくよあり
申んち紙きんそわらとといつまもさ
〜み〜家申もも申殿るの上
〜ま〜紙きん〜のまあひも今一人
〜の〜り紙きん〜のまあひも今一人
〜の〜あ〜り紙きん〜のまあひも今一人
小山殿よりまの道ま〜ゆ〜りみら
〜む〜ひの板敷ももま〜ひまも
〜と〜ま〜けい〜を諸大名取ら〜
〜と〜か〜紙〜〜ま〜ま〜ま〜ま〜

正一とあるが、氣をなすと見ゆまゝの上るに
沖いさわひも今まてもう極く一とやんといふ
つらんといふありといひゆり一車やりに東
のつららうりさむき六車登乱勢たたき人
衆人一美妻と打とふ白を興下勝興と
しきくまらきんやう一車よりゆり極せま
ゆるらうとせむも沖前とすりもせむ前
郷殿上人先づのゆよ入り列舟とふ車
よゝいともの人いさつまゝとあひゆりもえん
しつゆらう南の中づの代より舞臺の南の
西より心興とふせむれうとせむれうと上

童御草鞋とまのせらるる履く舞臺毎
布草の上紙あり西面の階とのりや
先沙塔の内志御座座人うく山礼仏と
口体可いりせまうとらうとさう
まの山ありの事いよとせまうと
その後法親王信經より次車より下
てまのりまの園白殿いさつら郷の燈籠
つら始法郷いさつらりさ記とらく
まきり此花を西と上りかゝりむら
まゝのたのゆり上郷いさつら先
文呪の清書といはれとらうと系

則王院僧正号俊 东南院僧正觀海 随心院僧正
叡毅 法性院僧正房深 修南院僧正実惠 妙法院
僧正紹深 東門院僧正日尊 円満院僧正行昭 三寶
院僧正満深 勸濟寺僧正

子上童とり一を一れ外法中僧坊のりと
一系もよ及る分ちあらくく一系基の上と一く西
東をと右志の系門と一ら系切事と一記也
も右宗量胡臣太實法胡臣なりた右のり
己らく一体所の少官もく一わとはらく一もく
大新道と一系もくもく一系卷と過り
た右の極乃底子ゆつく樂人系原子入以下畏次

系と奏とれれ一系預前舞臺のりと一系も一系備と
と一系も一系備と檀那院僧正相教石山僧正守
快也 所作と一系も一系時分らく一系と一系も奏す
次廣雲書紙奏と一系も一系梵音衆舞臺のりく
梵音紙と紙と後と一系もく又と一系もくと一系も奏す
次陽杖元のもと一系も一系と一系も奏す
ゆつく一系も一系と一系も下樂又常樂計のり
次御導所四教又と一系もくと一系も奏す
あり一系も一系の使内藏乃交身胡臣東の方
の一系も一系のりらく一系もくと一系も奏す
と一系も一系と一系も奏す

かきしる糸織為人にたりあり。此よりあるは
神さうしめんと宰相のらしてまじりてあはれ
とりて神のしるまじりて宰相又はし
とまじりてせんすつと大將にけとまじり
酒とくすすまじりてあはれとせたりま
てつ君よほくまあれとつ君をたてつて
神をすすみてつこまをさあひはく
はさうまじりて更の神酒を入れてたあをせはつ
君とあはれとつはさうまじりてあ
はれまじりてあはれとつ大將にけ
とまじりてまじりてつ君いさまじりて
四杯は神酒

まかりしけよつりてつはさうまじりて
つ君よほくまあれとつ君をたてつて
神をすすみてつこまをさあひはく
はさうまじりて更の神酒を入れてたあをせはつ
君とあはれとつはさうまじりてあ
はれまじりてあはれとつ大將にけ
とまじりてまじりてつ君いさまじりて
四杯は神酒

とていふ大なる人なりとていふ事ありて
かゝる事ありていふ事ありていふ事ありて
地下に人なりとていふ事ありていふ事ありて
面白き事ありていふ事ありていふ事ありて
よき事ありていふ事ありていふ事ありて
くさくさたる事ありていふ事ありていふ事ありて
の事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて
あつた事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて
たいていなる事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて
ふつた事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて
まづいふ事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて

おぼしき事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて
とていふ事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて
—おぼしき事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて
あつた事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて
らゝる事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて
とていふ事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて
かゝる事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて
いふ事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて
らゝる事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて
ひ—とていふ事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて
おぼしき事ありていふ事ありていふ事ありていふ事ありて

つを流し下り関白下ふにれり〜
ふ所水の殿上人は
代り上童殿上人も
よ左右のくし半
此の奥の御座
春庭楽一曲
建とま〜
左の童六人
久とま〜
いよこ船の

童二人言藤丸度海丸
くわや〜
人も〜
この〜
と〜
童殿上人十人
あゆ〜
は本所の
聖護院
ていつれも
そふも〜

将教豊ひらりき侍従兼美苗お教言ひとい
まのうまた長也堂上堂下れ物の言もも
ひらう山の言ももらうくをうりあり言ふ
中より青海波の言ももあふは言ふも
のたもゆも言ももあふりてられたり
かひ一落のけひひらも言ももみられひ
ゆりあふもあたら長こはほ言ももあ
りうも言ももあたら長こはほ言ももあ
れ胡長たら言ひて口傳一たる事た
かあ言ももあたら長こはほ言ももあ
殿上の言ももあたら長こはほ言ももあ

たも言ももあたら長こはほ言ももあ
いりりしに平安元り湯か言ももあ
り紀もとん言ももあたら長こはほ言ももあ
ま言ももあたら長こはほ言ももあ
て言ももあたら長こはほ言ももあ
の言ももあたら長こはほ言ももあ
う言ももあたら長こはほ言ももあ
わた言ももあたら長こはほ言ももあ
ま言ももあたら長こはほ言ももあ
こ言ももあたら長こはほ言ももあ
う言ももあたら長こはほ言ももあ

といつて程をいさかひのむくくしてこそよるひつと
 なつと志のめたるそよ一むかひのむくくしてこそ
 もあひとよるそよ一むかひのむくくしてこそ
 ともあひとよるそよ一むかひのむくくしてこそ
 かゝるそよ一むかひのむくくしてこそ
 ねてよいそよ一むかひのむくくしてこそ

舞臺

左

- 幸増丸 市菊丸 春福丸 幸海丸 春慶丸
- 慶藤丸 青海波二人 尊藤丸 慶満丸
- 陵王 龜石丸

右

- 満日丸 春千代丸 春福丸 春代丸
- 春藤丸 春日丸 納蘇利 晴若丸 栄玉丸
- 取他人望所取他人望所 直衣直衣 御御
- 花山尾大納言直衣 山科中納言入道山科 前前 右兵衛右兵衛 宗室宗室
- 教興持明 教興持明 左樂行事左樂行事 經良經良 教有教有 教豊教豊
- 基親基親 永藤永藤 教有教有 教豊教豊

長資山科 詞教代のうらやう 地下定秋 藤秋

氏秋 為秋 家秋 幸秋 益秋 教秋 葛秋 遠秋

算策 今小路宰相中將直衣松重のいしきまな文とらます

兵部卿兼英世末の代の 地下 重英 重長 苗

治部卿 綾小路三位同代中 滿季胡臣衣冠下結とらます

實卿世末の代の 教高同 地下 景房

景秀 景親 景清 景廣 景勝 景藤

琵琶 伏見入道親王直衣 右大臣直衣 孝繼胡臣

孝長世末の代 筆 御取右の筆 相尾法親王代

實卿世末の代 重俊 重保 藤中 二張山向局

羯鼓 无葛 太鼓 秀葛 鉦鼓 忠葛 垣代

殿上人 雅清胡臣この世衣紅梅のいしき

隆豊胡臣この世衣紅梅のいしき

實卿この世衣紅梅のいしき

兼英 衣冠 教豊衣冠

教高 行光 經典 時房 孝長衣冠

持教 秀俊 日上重 御賀丸きんらん 岩壽丸

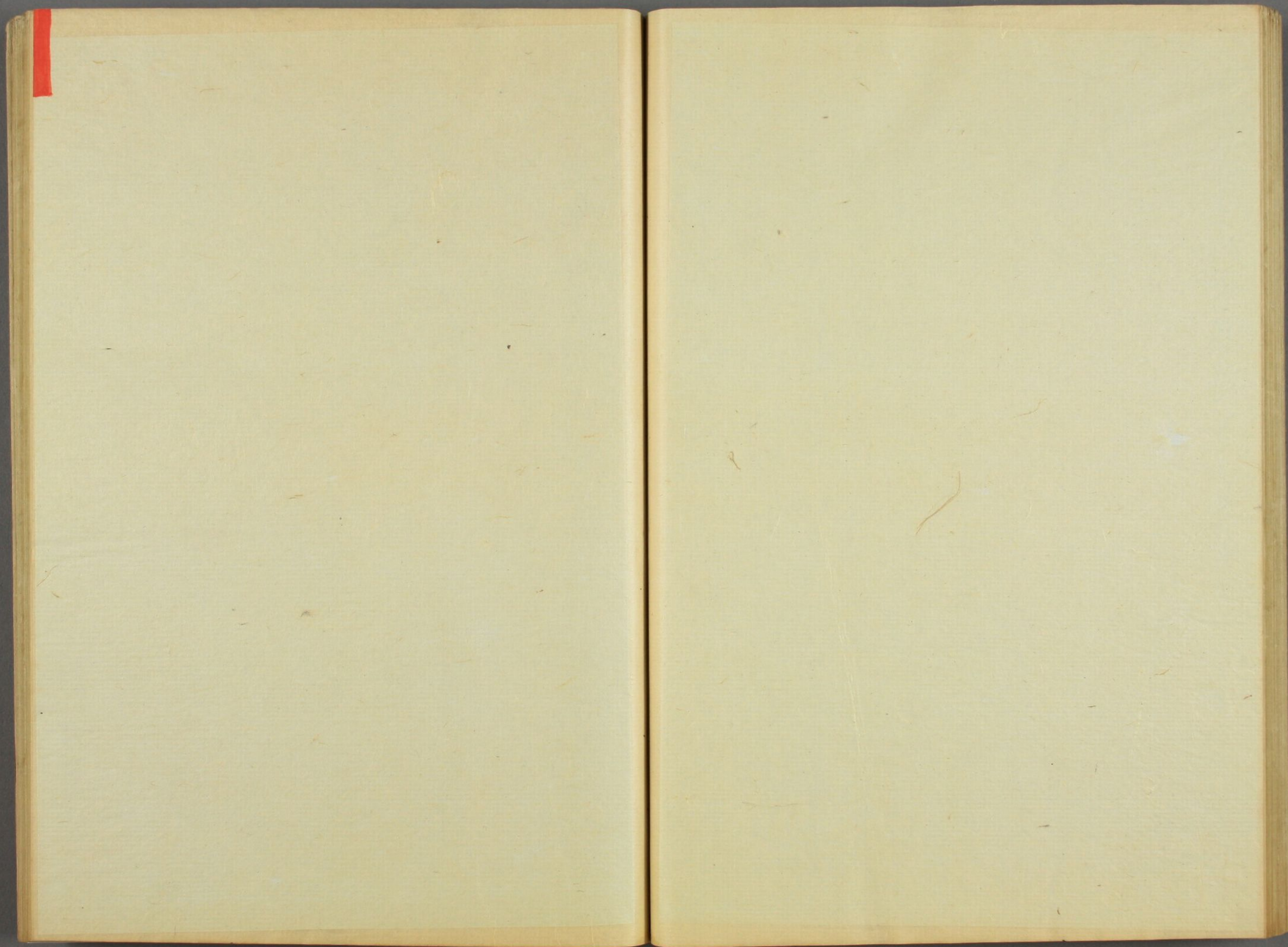
梅白丸日 藤壽丸 春祓丸日 八代智丸日 松若丸日

長壽丸日 都々壽丸日 春愛丸日

以上十人北山

春愛丸日

以上十人北山



扶桑拾葉集卷第十八

目錄

七百五神合序

藤原長親

仙源抄跋

同

為聖記

同

ひくさのきこ乃序

後小松天皇

廣苑院准后義滿公御悼詞辭

藤原雅經

後小松天皇外遊乃記

同

寫士紀行

釋亮若

扶桑拾葉集卷第十八

參議從三位兼行右近衛權中將源朝臣光因編集
七百番奇合序

藤原長親

應永廿一年乃冬、此法小河乃甲、等といらうん
く貴賦、編素といふ、此先軍、後等といふ、此
人、私奇の通、くわく、あつ、ま、り、と、集、く、り
の、数、十、四、人、と、の、く、百、を、御、し、て、千、四、百
番、迄、ゆ、り、た、石、り、り、ら、し、て、七、百、番、と、い
ひ、奇、合、の、判、者、せ、く、ん、あ、り、わ、り、あ、り、し、り、り
え、く、く、く、く、く、く、水、瀬、乃、夢、と、い、く、東、心、の、西、心

とらわつてしるべきにれくろおすといひはるに
それとも信をかりするに信をの心信をの詞紙
ははかすしつらわもあつたにせし物信法物
基後後頼五条三右衛門末相黄門壬生二位
の后代にれ家通つしつら信意の信朝より
ひつら品風雅志の正統とつらまはるまは
つらしるる一揆也在賢の朝つら意にあつ
しつら信をの心信をの心信をの心信をの
のあつらつた意通つた信をの心信をの心
はらあつた信をの心信をの心信をの心信
つらまはるまはるまはるまはるまはるま

成つては代つてしるるにれくろおすといひはるに
かんまはるまはるまはるまはるまはるま
今つては代つてしるるにれくろおすといひはるに
しつら信をの心信をの心信をの心信をの
時信のあつらつた意通つた信をの心信をの心
らあつた意通つた信をの心信をの心信をの
おつた意通つた信をの心信をの心信をの
れつた意通つた信をの心信をの心信をの
それ信をの心信をの心信をの心信をの
あつた意通つた信をの心信をの心信をの
あつた意通つた信をの心信をの心信をの

鬼神のついでにまじりて道におもひつゝまじりて
いふれどもついでにまじりていふれどもついでに
こゝろを合の中これ悟意悟道やとていふ
こゝろを合の中これ悟意悟道やとていふ
これ邪僻のちやまじりていふれどもついでに
みらまじりていふれどもついでに
海番られみらこゝろを合の中これ悟意悟道やとていふ
ついでにまじりていふれどもついでに

仙源抄跋

弘和乃ほしめいふれどもついでに
弘和乃ほしめいふれどもついでに

あうにまじりていふれどもついでに
まじりていふれどもついでに
れいりついでにまじりていふれどもついでに
新しにまじりていふれどもついでに
いすくねえにまじりていふれどもついでに
あうにまじりていふれどもついでに
水源抄五十餘巻 慧明抄十二巻 源中寂叙
抄二巻の中古人の解釈をいふれどもついでに
まじりていふれどもついでに
いふれどもついでに
相違なまじりていふれどもついでに

妙曲と安置とありけりこゝろふ哉冠威服
しと路のゆる唐人のこゝろのふ貴人さ
へと誰のこゝろとあやとこゝろの虚をよ聲何
かゝるは是れん山野乃天満大自在と神
れとこゝろのあやとこゝろの天慶のじ
道賢と云僧行力勇猛の功とこゝろの冥助
のこゝろの芳野の苑と権現ありひよ山野の
天満天神のゆるえをこゝろのゆるり時と
神賢とこゝろのゆるりをよをゆるり苑
とこゝろの數百里とこゝろのゆるり前と
みとこゝろのゆるり古書とこゝろのゆるり載た

可其所乃莊嚴乃多積此夢と露のこゝろの事
明其後愈承元年乃秋幽月同門の僧志
菴れりこゝろの神と聖と受衣とゆるり神
姿成圖とゆるり形象とて幽林とゆるり月
溪とゆるり夢とゆるり儀貌衣冠
子とゆるり不思儀のこゝろのゆるり
幽林感歎乃ゆるり法とゆるりをゆるり
とゆるり此巻とゆるり寶塔とゆるり中
小法華法安とゆるり本とゆるり道賢とゆるり
拜とゆるり夢とゆるり塔婆法華とゆるり
又ゆるりゆるり彼真形とゆるりゆるり

海ありこれひしくは祖宗成海の法道と
たそけ何れもいふに神意もや縁遇の時
に機感相應とほよしうや信ふはく物
り記よるうて當菴永代乃ま此神の勸清
し奉りて朝夕は焼香供養懇誠とほく
されたりかの仙洞にふりて人くこの
まも法傳きしと和号と諱しと法樂
をりて近き閑居の僧をましと
志法乃海くありて一軸となせり劣者
幽林に海くありて事日淡しと
年成るるましりて蓋法ありと
物

りしと云法念しはまふまの
事れれしと一經をりて
奪乃ありとましりて菩提を
やじし法えお柳をりて
のありとましりて有と云
あり今あり我あり人何れ
て目前とましりて事あり
多みましりて佛あり
草木としみましりて是幻化あり
明あり極ありとましりて
字ありとましりて實持あり

と留しきりよみくらしなむ人おほく
はうりけ

あふらむもよりのいひれおほく
かゝもふかこくはうりけ
とむしんむらむいふれふ
いほむしんむらむいふれふ

ふらむの陀羅尼れ書とていふはく信信の
ひまうりてはうりけ
ゆらむの書ゆりけとていふはく信信の
あふらむもよりのいひれおほく
とむしんむらむいふれふ

きりやうむらむいひれおほく
うりけとていふはく信信の
あふらむ

あふらむもよりのいひれおほく
かゝもふかこくはうりけ

此らあひくはうりけとていふはく信信の
あふらむもよりのいひれおほく
かゝもふかこくはうりけ
あふらむもよりのいひれおほく
あふらむもよりのいひれおほく

あふらむもよりのいひれおほく

前園白よりけしきりて世傳事なる
さあや〜あや事〜あや〜あや〜あや
さあや〜あや〜あや

郭公の移〜あや〜あや〜あや〜あや
さあや〜あや〜あや〜あや〜あや

沖ね〜あや

入月も移なる〜あや〜あや〜あや
さあや〜あや〜あや〜あや〜あや

二十七日にあ〜あや〜あや〜あや〜あや
さあや〜あや〜あや〜あや〜あや

坊うらやうんお圓寺あ〜あや〜あや〜あや
岩嶺まのあ〜あや〜あや〜あや〜あや
とあひのあ〜あや〜あや〜あや〜あや
あや〜あや〜あや〜あや〜あや
勅行のあ〜あや〜あや〜あや〜あや
安養れ浄刹ふ〜あや〜あや〜あや〜あや
覺ん樹のあ〜あや〜あや〜あや〜あや
あや〜あや〜あや〜あや〜あや
あや〜あや〜あや〜あや〜あや
あや〜あや〜あや〜あや〜あや

沖中陰のあ〜あや〜あや〜あや〜あや
さあや〜あや〜あや〜あや〜あや

にふくむるをばらばらとて
ゆめをばらばらとて陳年
の事もゆめをばらばらとて
まてしゆくや田舎の事

か一柱のもゆめをばらばらとて
ゆめをばらばらとて

實智のゆめをばらばらとて
ゆめをばらばらとてゆめをばらばらとて
ゆめをばらばらとてゆめをばらばらとて

ゆめをばらばらとてゆめをばらばらとて
ゆめをばらばらとてゆめをばらばらとて
ゆめをばらばらとてゆめをばらばらとて
ゆめをばらばらとてゆめをばらばらとて

ゆめをばらばらとてゆめをばらばらとて
ゆめをばらばらとてゆめをばらばらとて
ゆめをばらばらとてゆめをばらばらとて
ゆめをばらばらとてゆめをばらばらとて

後小松流と号し一筆をすまらざる一筆を

ふれくもはぬり朽木の小松東
ふふふ子代のもはなれん

ふぬくく流一徑信張り下さぬこれ
ははきしとくさけとくあつたつたに
りくあくゆきと行い舞のしとくあ
ゆりゆりあつたつたあつたあつた
とく守れしとく筆のあつたあつた
ゆりあつたも信云綺語れあつたあつたあつた
轉は梅の縁とつりゆらん事忘る

富士紀行

釋亮若

七の通風流りのつ信縁ゆしてふもり
閑守戸ととわかれ侍まの縁のゆとつら
事もたなくあれ氏とつたあつたあつた
とらんとくしとれい侍はくもつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
侍りあつたあつたあつたあつたあつた
れゆくあつたあつたあつたあつたあつた
くあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

清立れ暖まるいはしつゝ免乃常一死
すしあさる乃とやのあつしをうけく有
しつゝ是侍り

作みゆ代りらつゝし学あをな
るぬよしつゝけるるれ

逢坂越侍とて閑乃明神の侍りしとて

君の代りあつたつゝしつゝし
しつゝしつゝしつゝしつゝし

ゆかしのあつたつゝしつゝしつゝし
のあつたつゝしつゝしつゝし

つゝしつゝしつゝしつゝしつゝし

ちあつたつゝしつゝしつゝし
あつたつゝしつゝしつゝし

あつたつゝしつゝしつゝしつゝし
あつたつゝしつゝしつゝし

あつたつゝしつゝしつゝしつゝし
あつたつゝしつゝしつゝし

あつたつゝしつゝしつゝしつゝし
あつたつゝしつゝしつゝし

今日れはとあつたつゝしつゝしつゝし
都より十三里はとあつたつゝしつゝし
つゝしつゝしつゝしつゝし

あはれなる御心にての御心にては
みまはるる御心

戸はしとけりて御心にては
あはれなる御心

たる井れ宿らう御心

じつとくし御心にては

あはれなる御心にては

あはれなる御心にては

あはれなる御心にては

あはれなる御心にては

十二日御心にては

侍〜よ

末と御心にては

あはれなる御心にては

あはれなる御心にては

あはれ

あはれなる御心にては

あはれなる御心にては

赤坂乃宿らう

あはれなる御心にては

あはれなる御心にては

あはれなる御心にては

さびるふかしの侍〜 枕詞とあはれしりぬ
さびるふかしの侍〜 さびるふかしの侍〜
侍〜

さびるふかしの侍〜 枕詞とあはれしりぬ
さびるふかしの侍〜

今夜ま十三夜まらと名をうけし月夜
いふらまらと名をうけし月夜
いふらまらと名をうけし月夜

さびるふかしの侍〜 枕詞とあはれしりぬ
さびるふかしの侍〜

さびるふかしの侍〜 枕詞とあはれしりぬ
さびるふかしの侍〜

月夜の侍とあはれしりぬ
さびるふかしの侍〜

さびるふかしの侍〜 枕詞とあはれしりぬ
さびるふかしの侍〜

やはらし宿の侍とあはれしりぬ
十二里

三原初と初夜の侍とあはれしりぬ
さびるふかしの侍〜

黄門の侍とあはれしりぬ
さびるふかしの侍〜

さびるふかしの侍〜 枕詞とあはれしりぬ
さびるふかしの侍〜

あはれしりぬの侍とあはれしりぬ
さびるふかしの侍〜

さびるふかしの侍〜 枕詞とあはれしりぬ
さびるふかしの侍〜

名取の侍

わらわの侍とあはれしりぬ
さびるふかしの侍〜

月夜まらと名をうけし月夜
さびるふかしの侍〜

名取橋月

う花ささるらじしぬさあしははり
けりくまきしははの月さ

舟月祝言

伊々あや。我君ふ代とあははる
あやあや月のあはあはは

はあははあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あよらとぬ〜ぬあをなうめあり
橋ま〜のゆとゆり 今橋よりしらう〜からうり
五里
修り済むれは〜ととれあ〜とよとれと
とぬま〜と

昔わ〜らる由れは〜そ音〜
かぬま〜とあ〜れら後

十六日〜とぬま〜引〜の音〜
なわぬ〜と路〜を〜にわ〜とれと
う〜は〜修〜る〜遠〜は〜りゆ〜る〜いふ
ぬま〜ら〜ら〜たのわ〜とれぬ〜けゆ〜
ぬれ〜の〜とぬま〜

あ〜ぬ〜と〜と〜ぬま〜の
ぬれ〜の〜とぬま〜
鷺坂山ぬま

すは〜とぬま〜
は〜とぬま〜

十七日遠江府 橋 ち里 ぬま〜ら〜ぬらぬ
あり侍〜と懸川ぬま ぬま

すわ〜とぬま〜
ぬま〜ぬま〜

るのちらぬ〜とぬま〜
ぬま〜ぬま〜

あさけのあさけのあさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

十八日あさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

あさけのあさけのあさけ

ふくしつしとせしむ侍る心
いふはまのちかしのまはる
可あしとるまはるまはる
白雲のまはるまはる
まはるまはるのまはる
我居れたるまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる

こいし和

このまはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる

月若くしとるまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる
まはるまはるのまはる

お立胡の心

朔りなれるの〇からしめあし
わを執はくはくわのちあからる
朔り新なるよらしむのち新なる
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

又清和

平ははあも〇〇からしめあし
あとの初をたあも〇〇〇〇〇〇
なは〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
あも〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
朔りなれるよらしむのち新なる
せう執はくはくわのちあからる

く〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

清和

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

又清和

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

くれし身もたあもれく
くこのくはれあくく

同沙和

あ川乃海くく海くく
うききくく海くく
あくのあくくくはくく
くこのくはれあくく
あ乃由来あくくく
うし子年くくく出現の
く侍くくく乃又干
く海くくく

ああくく海くく
あくのあくくく
あくくく海くく
あくくく海くく

沙和

あくくく海くく
あくくく海くく
あくくく海くく
あくくく海くく
あくくく海くく
あくくく海くく

袖原の海をわき國としてを聞侍一可
これ浦とて同名ゆりたり

くぬくぬく袖一のくぬくぬく
くはくはくぬくぬくぬくぬく

津丹まの侍一能

清くくみわのわきのわ松乃世
くわこのくわまきくはくまん

古一日らくぬ駿河府めて清詠

腕くわくわくくわあらくたうと
かくわくわくわくわくわく

此外ゆ録子く侍りてくわくく結是

ゆくわくわくわくわくわく申くは
乃佳什く作くわくわくわく 同府
還法村戸入信

未くわくわくわくわくわくの法
くわくわくわくわくわくわく

くわくわくわく

くわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく

字はのらく感愛の事わくわくわく

くわくわくわくわくわくわくわく

くわくわくわくわくわくわくわく

龍政

丁か白ぬるまきこしりゆへて日か
ららちとささか神と入るら
戸修し付ねぬし福進す
作事ぬ

神と一統天はるか
あつちりい
最校方清しとまわりぬ

春のつれ花すめりり
〜笑ららけ〜最校せんぬ

女二日せしとよあか

〜神とあつちりい
垣らせんあつちりい
か

弱せりいあつちりい
〜ららちとささか

さ東のちらぬぬ
り奇よとせられし

あつちりいあつちりい
あつちりいあつちりい

詠進なり

あつちりいあつちりい

百葉乃花れいしものくらしきもつせ
あふりたれしつらつてせう
野らよまふはつしつれとせ

つらうつ方縁のくらしきもつせ
くむ路やまはあまの宿り
いこいしつとゆらゆらもせつ信しつ
あふりたれしつらつてせ
おしりれ杜きつらつてせ
あふりたれしつらつてせ
くれあふりたれしつらつてせ
二つら老るの森れいしつ信しつ

名あしつら老るのそりれきれつ
やうくつらをる子代乃あ枝
かこらつらつてせ

たれしつ今まをれつしつ作しる
あふりたれしつらつてせ
つらつてせ
あふりたれしつらつてせ
あふりたれしつらつてせ

